

平成29年度 学校評価総括表

奈良県立郡山高等学校

教育目標		幅広い知識と教養、正しい判断力と自律的な生活態度を身に付けさせるとともに、豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的で平和な社会の創造と発展に貢献できる人材の育成を目指す。							総合評価
運営方針		「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導の徹底を図る。							
○昨年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標				
進路目標・実現に向けた学習への意識付けはできたものの、早期取り組みは不十分であった。1・2年次での基礎基本が強固でないため、定着に向けた課題の洗い出しを行い、対策を早急に講ずる。また、教員の授業力向上に向けた取り組みも必要である。		生徒の意欲や思考を引き出す授業改善に努め、主体的・探求的な学びを提供する。			第1学年で基礎・基本を固めるとともに、予・復習を習慣化させる。また、校内研究授業や自己研修等を通して指導者の授業力を向上させる。				
		生徒の進路実現を図るため、キャリア教育をさらに充実させる。			進路に関する情報提供等を充実させ、自己を客観的に見つめさせることにより、早期より具体的な将来の進路を考えさせる。				
		生徒の基本的な生活習慣の確立や自主的な活動を奨励・支援する。			不注意による遅刻の削減に努め、校内外の生活全般にわたってマナーを身に付けさせる。また、学校行事や地域への積極的な貢献を推進する。				
		学習と部活動の両立を図れる指導をめざす。			学習においては集中力を養い、目標を貫徹し継続して取り組む強い意志力を育てる。部活動においては、教科担当と部活動顧問が常に連携し、効率的な活動となるための工夫を図る。				
		豊かな人間性の育成に努める。			学校行事、生徒会活動、HR活動及び読書活動等の精選と充実を図る。				
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)			年度末(3月)		
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	平素の授業の充実・授業研究の活性化	主体的・対話的で深い学びの実現を図るために授業改善を行う。	教員アンケートにおいて、「主体的・対話的で深い学びを意識した授業研究化が図れた」と答えた教員の割合が70%以上ならA、50%以上ならB、30%以上ならC、30%未満はDとする。	—	指導と評価の一体化に向けて、観点別評価の導入について各教科に研究をお願いしている。なお、教員アンケート実施後に自己評価を行う予定である。	A	主体的・対話的で深い学びを意識した授業研究が図れたかという質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた教員は80.0%であり、大多数の教員は昨年度よりアクティブラーニングを意識した授業研究が図れていると考えられる。一方で、観点別評価については特定の教科を除き、まだ浸透していない。	授業研究は今年度の結果にとらわれず、常に研鑽を深めていく必要がある。ただ、観点別評価については課題が多く、校内で評価についての環境を整えるとともに、将来的には教務内規の見直しを検討をしなければならぬ。	すべての教科で満足度が高く、バランスよく授業が進められている。アクティブラーニングを適切に授業に取り入れようとしていることも評価できる。さらに理解の深まる授業に期待する。
進路指導	キャリア教育の推進	キャリア教育に関する講演等において社会で活躍している人の話を直接聞き、将来の自己実現に役立たせる。	キャリア教育に関する講演等の感想において、「良かった」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(事後アンケート)	A	第2学年の「Professionalsに学ぶ」では、98.8%の生徒がよい評価をしている。また第3学年の「3年大学説明会」では、98%の生徒がよい評価をしている。最終的には、10月に行われる第1学年の「キャリア教育講演会」の結果を見て評価をする予定である。	A	「キャリア教育講演会」においても97.5%の生徒がよい評価をしている。各学年の行事の感想において、「よかった」「役に立つ」の割合が非常に高く、A評価であった。生徒ひとりひとりが自身自身のキャリアに関して考えるよい機会になったと考えられる。	本校のキャリア教育の枠組みを一層検討し、生徒が自己の進路について深く考えることができるための情報提供や講演等の内容を検討する。	良好である。
	進路意識の向上	第1学年より、明確な進路目標と高い進路意識を持ち、最後まで第1志望を堅持させる。	センター試験で7科目を受験した生徒の割合が70%以上ならA、65%以上ならB、60%以上ならC、60%未満はDとする。(センター試験結果)	—	河合塾第2回マーク模試では、84.5%の生徒が7科目を受験した。これからも第1志望を堅持させ、センター試験7科目を受験するように指導する。最終評価はセンター試験後に評価を行う予定である。	A	第3回マーク模試では68.4%、センタープレテストでは70.4%の生徒が7科目を受験した。センター試験7科目受験率はセンター受験生徒を母集団として71.4%であった。国公立大学志望生徒が7科目型でセンター試験を迎えられるよう、1・2年次における基礎力、特に数学、英語の基礎学力充実が課題である。	1年次より授業への真摯な取り組み・家庭学習・予習復習の習慣化・基礎力の徹底を図り、学力の向上を目指す。	良好である。
生徒指導	規範意識、公共心の向上	学校生活のあらゆる局面で挨拶の励行を促す。	挨拶に関するアンケートを生活委員を対象に行い、「教員や来校者に対し挨拶をしている」、「生徒同士で挨拶を交わしている」と答えた生徒の割合が85%以上A、75%以上B、65%以上C、65%未満はDとする。(独自アンケート)	—	アンケート調査は年度終盤に行う予定のため、まだ評価できない。毎朝の挨拶運動や、登下校時の通学路指導の際の感触は、前年までより良好と感じられる。	B	生活委員を対象にアンケートを行った結果、「教員や来校者に対し挨拶をしている」生徒の割合は79%、「生徒同士で挨拶を交わしている」生徒の割合は78%という数値を得た。及第点の数値であると判断するが、元気のよい挨拶、その場に相応しい挨拶がなされているかとなると、まだまだ改善の余地はありそうである。	挨拶強化週間の設定、ポスターや放送による呼びかけ等により、啓発に力を入れる。声とアイコンタクトを伴う正しい挨拶の手本を示す機会を設ける。部活動や生徒会、各種委員会と連携した挨拶運動を行う。	挨拶運動が効果を上げていていることは生徒の様子から実感できる。日常生活に自然と現れるよう、教員が範を示しながら維持、推進に努めてほしい。
特別活動	特別活動を通じた豊かな人間形成の育成	学校行事やHR活動、部活動において活力ある生活を実践できる環境を整える。	「生徒実態調査」により、学校行事やHR活動、部活動を「自主的・自発的に実践することができた」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、45%以上ならC、45%未満はDとする。	—	「生徒実態調査」を経て、年間を評価する計画であるが、「球技大会」や「文化祭」などの諸行事では意匠を凝らし、取り組む姿が見えた。	A	「生徒実態調査」で「文化祭への参加」、「所属部活動での活動状況」等の問いに対して「大変満足している・満足している」と回答した生徒が90%を超えている。そのことから彼らが課外活動において自主的・自発的に活発に運営し活動したものと思われる。	生徒の活力を生かしつつ、学舎統合に伴う部活動や学校行事の運営方法を再考する必要がある。	全国・近畿レベルの大会に出場し、成果を上げている。今後も文武両道を目指し、皆が一丸となって活躍してくれることを期待する。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権教育	豊かな人間性の育成を目指した人権教育HRの充実	自他の人権を尊重する資質と能力を身に付けさせるため、アクティブラーニングによる主体的な人権学習を実施する。	全学年で、各学期ともアクティブラーニング的要素を取り入れることができていればA、2つの学年ができていればB、1つの学年のみであればC、どの学年もできていない場合はDとする。	-	1学期の人権教育ホームルームでは、3学年ともアクティブラーニングを取り入れた学習を実施することができ、その手法が生徒の理解を促進して成果があった。	A	人権教育ホームルームでは、3学年ともすべての学期でアクティブラーニングを取り入れた学習を実施することができ、その手法が生徒の理解を促進して成果があった。	予定した目標を達成できた。来年度以降も継続するとともに、さらなる内容の充実に努めたい。	「部落差別」「障害者差別」解消に関わる新法が施行されたことを踏まえ、これまでの人権教育にうまく取り入れながら、指導を進めてほしい。
教育相談	予防的、開発的な教育相談活動の充実	教育相談活動をより充実させるための参考となる情報を提供する、教員向け広報紙「相談室より」を毎月発行する。	教員アンケートの結果、「『相談室より』を通して新しい知識や実践のヒントを得た」と答えた教員の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。	-	これまでのところ、「相談室より」を毎月順調に発行している。教員アンケート実施後に評価を行う予定である。	A	教員アンケートの結果、「『相談室より』を通して新しい知識や実践のヒントを得た」と答えた教員(そう思う、どちらかといえばそう思うという回答の合計)の割合が90%という結果であり、評価はAとなった。	広報、情報提供の役割は概ね果たせているのではないかと判断している。さらに、読んでもらいやすい紙面構成や記事の選択等、内容の充実に努めていきたい。	良好である。
保健体育	生涯を通じ、健康な生活が実践できる力の育成	保健だよりを活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。	生徒実態調査において、「保健だよりを読んで怪我・疾病予防などに生かされた」と答えた生徒の割合が、60%以上ならA、40%以上ならB、20%以上ならC、20%未満はDとする。	-	生徒実態調査がまだ、実施されていないので、自己評価は、まだだせない状況ですが、保健通信は現在、4号まで発行している。	B	「毎日読んで、怪我や疾病などの予防に生かした」という設問では、7.9%と良い結果がでた。また、「気になる内容については読んで、怪我や疾病などの予防に生かした」という設問でも、44.4%であった。しかし、「全く読んでいない」がまだまだ数値が高く、特に、第1学年の数値が高い。注意していきたい。	引き続き、「保健だより」の活用について啓発していきたい。関係の教科とも協議しながら、活用できる場所は活用してもらいたい。「保健」では、授業で使用してもらっている。	良好である。
	体力向上を目指した活動の充実	体育に関する行事「新体力テスト・体育大会」を実施し、体力の向上および活動の充実を目指す。	生徒実態調査において、「新体力テストの結果・体育行事への積極的な参加などを通じて、自己の能力を少しでも高められた」と答えた生徒の割合が、70%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。	-	生徒実態調査がまだ、実施されていないので、自己評価は、まだだせない状況だが、新体力テストの結果を見ると、総合70点以上の生徒が昨年度より第2・3学年では、増加している。この結果が、アンケートにどう出るか楽しみである。	A	文言を少し変えたが、「積極的に各行事に参加した」と及び、「参加した」を合わせると88%以上になった。今までのアンケートでもこのような高い数値にはなっていないかった。また、中間報告でも示したが、高い運動能力を身につけている生徒が増えた。	体育活動に積極的になることは、気持ちの面で運動をおこなう原動力となると考える。また、10%以上の生徒が積極的に活動できていない。気持ちの面で積極的になれるよう、工夫していきたい。	良好である。
文化図書	豊かな人間性の育成を目指した読書活動の推進	読書HR、ピプリオバトル、図書館便り「共慶」、ポスター掲示などをとおして、読書活動への意欲を高める。	生徒実態調査において、いろいろな読書啓発活動から、「読みたい本が見つかった」と答えた生徒の割合が、60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%以下はDとする。	-	図書館便り「共慶」は各月担当の図書委員が読書啓発できるように工夫し、順次発行中である。読書HR「ピプリオバトル」にむけ、研修を計画中である。生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。	A	ピプリオバトルについては、大変好評であり82%の生徒が「楽しかった」「またやりたい」と答えており、「読みたい本が見つかった」と95%の生徒が答えている。「共慶」においては、53.4%で、なお課題が大きい。	「共慶」発行にあたり、話題の本であったり、時事の本を紹介するなど、一般的に誰もが興味を持つ本の紹介など、内容の工夫が必要である。	読解力が学力の基本と言われる。ピプリオバトルや図書室からの刊行物を通して、読みたい本を見つける取り組みを評価する。ぜひ継続してほしい。
環境整備	自主的な活動による美化マナーを向上	美化委員により、校内美化(特にロッカー・靴箱の中、及びロッカー・靴箱の上の整理)を呼びかけ、生徒全員に実践させる。	美化委員が大掃除後に点検を実施し、教室内の整理、ロッカー・靴箱の上の状態を4段階で評価させた時、私物がない状態のクラス数の割合が、80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(独自調査)	A	事前点検を実施し、特に汚れている箇所を調べさせた上で大掃除に取り組み方法などを取り入れ、校内美化に努めている。教室内が整理され、ロッカーや靴箱の上に私物がない状態のクラス数の割合が94.6%だったので評価はAとする。	A	今年度は、9回の大掃除を行い、その度に事後点検をさせ、校内美化に努めた。また、事前点検を実施し、特に汚れている箇所を重点的にきれいにするという方法も取り入れた月もある。事後点検で、教室内が整理され、ロッカーや靴箱の上に私物がない状態のクラス数の割合が95.2%だったので評価Aとする。	常に私物整理に心掛ける指導を担当・副担任や美化委員中心で実施し、教室内(特にロッカー内や上)の美化を維持したい。昇降口の靴箱上については、少しでも私物が置かれ始めたら、環境整備部中心に担任に連絡し、取り除かせるという指導を継続する。	良好である。
広報・情報	ホームページ、連絡メール、学校案内、広報誌等、情報発信の充実	ホームページ、メールシステムを活用し、行事の周知により、カウンセリングの日程、育友会の社会見学、大学見学の参加者の増加と満足度を高める。	利用者、参加者に満足度アンケートを行い、「よかった」と答えた保護者の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(事後アンケート)	B	ホームページや連絡メールで配信される情報は、役にたっていますかという項目では、役にはまるが54.1%なのでBである。広報活動により参加された育友会の社会見学では、満足度の高いAといえる。ただホームページの充実も、ここからの課題である。	B	保護者アンケートによる満足度54.1%から、ホームページや連絡メールはある程度認知されていると考えられる。日進月歩の情報機器には迅速な対応が必要である。利用増に向けてはスマートフォンからの閲覧を考え写真は、縦向きに並べる工夫を考えたい。	新しいホームページへの移行に取り組んでいる。毎年1学期の早期にホームページ制作ソフトCMSの職員講習を実施して、新しいシステムへの円滑な移行に努める。コンテンツの更新のスピードを速める。	新しいホームページにおける情報発信に期待している。
事務・管理	城内学舎返却に伴う移動、移設、廃棄業務の円滑な進行	備品調査や移設に関わる予算、エアコンの移設計画等の精査、再検討を行う。	返却に伴う予算執行に過不足がなく、スムーズな移転が行えた場合はA、多少の予算不足が生じた場合はB、大きな予算不足が生じた場合はC、移転ができなかった場合はDとする。	B	毎月移転WGで検討を重ね、教職員全体で情報共有し進めている。移動や廃棄する物品のボリュームが確定してきたところで、事務的作業は順調に進んでいる。今後は計画等の精査と実際の移転作業に向けた準備を進める。しかし、移転にかかる予算要求はしているものの、確定していない状況である。	A	必要とする予算を確保し、教職員とは常に情報共有をはかりながら学校全体の取り組みとして全教職員協力のもと準備と作業を行ってきた。結果、概ね大過なく城内学舎閉鎖に伴う物品の廃棄・移転、またそれに伴う事務的手続き等を完了し、第1学年から第3学年まで冠山学舎で学ぶ環境を整えることができた。	今後も校舎修理や建てかえの時期があった際には教職員一丸となって進める必要がある。	良好である。